

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22560612

研究課題名(和文)ユニットケアシステムを用いた児童養護施設における養育環境の構築方法

研究課題名(英文) Research on the nursing environment of child foster care institutions with living unit care system

研究代表者

石垣 文 (Ishigaki, Aya)

広島大学・工学(系)研究科(研究院)・助教

研究者番号：60508349

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、児童養護施設への導入が求められ進められているユニットケアシステム(子ども10名程度と複数職員による生活集団ごとに完結した空間内で生活行為が展開され、職員がケアにあたるしくみ)に着目し、その導入実態と施設運営面からみた問題構造を明らかにすることを通じ、児童養護施設における養育環境に関する提案を目的とした。研究からは以下四点が示された。1) 全国施設におけるユニットケアシステムの導入実態、2) ユニットケアシステムにおける職員の空間利用と連携に関する実態と特性、3) 職員の「働きやすさ」からみた施設環境の評価構造、4) 今後ユニットケアシステムをより有効なものとするための検討事項

研究成果の概要(英文)：In Japan, as the philosophy and the theory of care for the children in child foster care institutions change, the living unit of the institution aims to downsize from around 2000. The purpose of this study is to examine the actual condition of the downsizing the living unit in child foster care institutions, and to clarify issues of the working environment for care workers. The main findings are as follows: 1) The types of the institution's plan are characterized by its composition of living unit and administrative unit, and it is also related to the institution's historical development. 2) The actual state of cooperation among the care workers, focusing on the correlation between the independence of the living unit and the worker satisfaction level was revealed. 3) The care workers evaluate the downsized living unit system not only for the interests of children but also those of the workers.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：児童養護施設 養育環境 施設空間 小規模化 ユニットケア 環境評価 職員連携

1. 研究開始当初の背景

格差拡大のいわれる今日の社会にあって、次世代を担う子どもの育成は重要な課題である。しかし、家族と生活することのできない「要養護児童」は1990年代より増加を続け、現在児童人口の1%と、ここ40年で最高の値となっている。彼らの生活の場として中心的な役割を果たしてきた児童養護施設(全国568ヶ所)であるが、約7割が大舎型施設にて数十人から百数十人での集団生活を余儀なくされている。そうした集団生活では、要養護児童にとって必要な特定の養育者との安定した関わりや、各自の必要性に応じた生活援助を行うことが難しい。それゆえ、施設に入所する被虐待児へのケアの限界や、子どもの不十分な成長発達が指摘されて久しい。自立に必要な情緒の安定や経済観を育まれないまま社会に出た子ども達は、成人後の福祉受給者としての生活や虐待の次世代への連鎖という事態が指摘される。公的福祉財の投入と回収といった視点からも早急な対応が必要である。さらに、約8割の施設は旧耐震制度のもと一部または全体が建築されており、改修・建て替えも急務の課題である。

こうした事態への具体的な方策として、国は子どもへの個別的な対応や家庭的な養育を目指し、「地域小規模児童養護施設」や「小規模グループケア事業」を導入することで、運営面からも建築面からもユニットケアシステムへの転換をはかった。しかし明確な整備指針は挙げられず、各施設が個別に方策を模索する状況が続いている。

これまでユニットケアシステムについて、福祉や心理学分野からの研究の蓄積がみられるが、それらにおいて「空間」は等閑視される傾向にある。一方、ユニットケアシステムは部分的な導入を含めて、約半数の施設で実施されているが、施設現場からは、子どもへのよい良い養育が提供できる利点があげられている。しかし一方では、職員の負担や職員間連携の困難さなど、職員側の課題が多く指摘されている。またユニットの適正規模も明らかではなく、施設空間の計画も含めたユニットケアシステムのあり方を考える必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、児童養護施設への導入が求められ進められているユニットケアシステムに着目し、その導入実態と施設運営面からみた問題構造を明らかにすることを通じ、ユニットケアシステムを用いた児童養護施設における養育環境に関する提案をすることを目的とする。

なお本研究では、ユニットケアシステムを「就寝、食事、入浴、団らん、学習といった

生活行為が子ども10名程度と複数職員による生活集団ごとに、完結した空間内で展開され、職員が児童ケアにあたるしくみ」と位置づける。

3. 研究の方法

研究は以下3つの構成で行う。

1) ユニットケアシステムの導入実態

ユニットケアシステムの導入実態を運営的な側面と建築的な側面から把握し、また施設運営上の課題を捉えるため、導入施設に対して郵送によるアンケート調査と、施設平面図および施設パンフレットの収集を実施し、実態の把握と分析を行う。

2) ユニットケアシステムにおける職員の空間利用と連携に関する事例的考察

ユニットケアシステム下における職員の空間利用および職員の連携方法とそれらに対する意識を捉え、施設空間の課題について考察する。調査対象は居住部門と管理部門の空間構成が異なる4施設(居住分散型独立棟、居住分散型2戸1、混合分散型、一棟集約型)を抽出し、職員に対するヒアリングおよびアンケート調査を実施する。

3) 職員の「働きやすさ」からみた施設環境の評価

子どもへのメリットの一方で職員への負担の大きさが指摘されるのがユニットケアシステムの課題と捉え、職員の働きやすさという視点から施設環境の評価を求め、その構造を抽出することを試みる。調査対象は居住分散型、混合分散型、一棟集約型施設から各2施設を抽出し、児童指導員・保育士に対し評価グリッド法による面接調査を行う。

4. 研究の成果

(1) 研究の主な成果

以下の四つにまとめられる。

1) ユニットケアシステムの導入実態

全国の児童養護施設のうち小舎制および中舎制施設205施設を対象にアンケート調査を行い、92施設より回答を得た(回答率45%)。ここでの成果は以下5点にまとめられる。

これまで把握されていなかった、児童養護施設の本体施設における生活単位小規模化の実態を明らかにするとともに、特に児童虐待問題への対応といった社会的要請が強まった2000年代に入ってから急速な進展という状況が確認された。

子どもの数と職員配置の観点から生活集団の構成を示すことで、子どもの人数と職員配置数の相関関係がみられる点や、低い職員配置基準という困難さを抱えながらも、専任と兼任といった工夫を行いながら職員を配置している姿を捉えた。

生活行為を行う場所と生活単位の関係

をみることで、それら行為が単位内で完結し独立性の高い生活が行われる施設がある一方で、必ずしも生活単位内だけで生活行為が完結しない施設が半数近くあることが明らかになった。施設の小規模化はそうした幅をもって展開されていることが把握されたとともに、この点には職員の職種と配置数、処遇職員に求められる職務内容との関連があると考えられ、事例的な考察が必要である。

小規模化実践の経年的な過程をみることで、小規模化への取り組みには四つ施設型があることを示された。そこから、小規模化実践の長短に伴い、生活集団規模や通勤体制、建物の形態や平面構成の特色が異なること、さらには施設運営に関する課題も異なることが指摘された。

施設運営に関する課題は、職員配置基準といった制度に関わるものに加えて、生活単位の小規模化により職員の働く場が空間的に分けられたことに関連するものが把握された。

2) ユニットケアシステムにおける職員の空間利用と連携に関する事例的考察

ここでの成果は以下5つにまとめられる。

生活集団の構成と職員配置についてみると、ユニットの担当職員と複数ユニットを統括する職員による職員配置や複数人勤務など、各生活単位に分けられた空間で勤務することのデメリットを補う方策がとられているが、職員配置は施設の空間構成にも影響を受けている。

職員の空間利用の実態から、ユニットでの滞在が勤務時間の8割強とユニットが拠点となっていること、子どもの集団を10名超の規模にしなくてはユニット内での勤務時間の大半はひとり勤務となること、管理部門での行為は会議と事務作業に限定されがちであるものの、施設によっては職員の交流のために管理部門を活用していることが分かった。

職員間の連携・情報共有に関する自由記述については7つのサブカテゴリーを見出し、それらは「職員間の連携・情報共有への満足群」と「職員間の連携・情報共有への不満足群」の2つのカテゴリーにまとめることができた。職員間の連携・情報共有への満足群は「記録の工夫」「職員間の日頃からのコミュニケーション」「職員間の価値観・意識の共有」の3つのサブカテゴリーから構成され、不満足群の構成サブカテゴリーとしては「ホーム外職員との連携」「職員の個人差」「情報共有後の適切な対応が困難」「他ホームや施設全体の情報共有」の4つが示された。

小規模ケア下における職員間の連携や情報共有をより有効なものにするため、職員間の情報共有内容や意識の標準化を図れる

記録様式の統一、職員間の良好な人間関係の構築、SVを含めたホーム担当職員への具体的な支援体制の確立、が考えられる。

さらに職員の連携について、生活集団の構成や職員の空間利用の実態と合わせて考察すると、ア) 場所や時間を問わない情報共有手段としてのパソコンおよびネットワークの活用、イ) 各ユニットに分かれて働く職員が行為・活動を共有する場や機会の設定、ウ) スーパーバイズ体制や複数ユニットを担当する職員の配置といった組織体制の工夫、エ) 管理部門からユニットの把握ができるような空間構成、の4点が有効であると考えられる。それら各手法と施設空間構成との関係については今後調査対象を増やして検討する必要があるが、こうした手法を取らず職員連携や情報共有を確保するためには、ユニット規模を拡大して複数の職員体制を確保する必要が生じ、ユニットケアシステムの理念とは逆行することが懸念される。

3) 職員の「働きやすさ」からみた施設環境の評価

ここでの成果は以下4点にまとめられる。

職員の環境評価の観点には「建物・環境」「生活・ケア」「職員集団」「施設運営・管理」「地域との関わり」の5つに分類される。

子どもへの利点が強調されてきたユニットケアであるが、職員にとってもより良い支援の実現や負担の軽減、子どもとの信頼関係構築が実現しうるといったなどの利点があることが示された。

職員はユニットケアシステムの建物環境を評価している。また、施設環境の物理的要件として重視するものには、家庭的な設備・インテリア、子どもの様子が把握しやすいこと、また調理や食事が身近となるような空間構成であること等が挙げられた。

職員のバーンアウトを防ぎながら子どもへのより良い支援を行うためには、施設運営・管理面における公休の保障と適切な施設・ユニット規模が課題となる。

4) 提案

本研究では児童養護施設におけるユニットケアシステムにおいて物理的環境と施設職員の職務・連携との関係について示してきたが、今後ユニットケアシステムをより有効なものとするため以下三点の検討が求められる。

施設の空間構成に応じた職員配置のあり方の検討

職員間の連携における方法や意識の統一と職員への支援体制の検討

職員の関係構築の方策とそれに対応できる施設空間のあり方の検討

(2) 今後の展望

本研究で主に管理者および児童と生活を

共にする職員の立場からユニットケアシステムについて研究考察を行ったのは、職員の空間利用や職務および連携実態を考察することが、結果的に子どもへのより良い支援や利益につながるとの考えに基づいたためである。しかしそれはユニットケアシステムを一側面からみたに過ぎず、今後は、子どもの立場からの施設利用の実態と評価および課題を明らかにすることや、本研究で課題とした職員間の連携や情報共有を克服することが子ども達の生活や成長発達にどのように反映されるかについて検討する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

- 1.伊藤嘉余子、石垣文：児童養護施設の小規模ケア下における施設職員の連携：ユニットの独立性と職員の満足度との関連性に焦点をあてて、社会福祉学 54(1)、査読有、2013、pp.3-13
- 2.石垣文、生田京子：児童養護施設における生活単位小規模化の実態に関する研究、日本建築学会計画系論文集 77 巻、査読有、2012、pp.19-25

〔学会発表〕(計3件)

- 1.石垣文：ユニットケア型児童養護施設の職員による施設環境の評価 - 「働きやすさ」の視点から -、日本建築学会中国支部研究発表会、2014年3月2日、広島
- 2.石垣文：児童養護施設における職員の空間利用と連携からみた生活集団の小規模化に関する考察、日本建築学会大会学術講演会、2012年9月14日、愛知
- 3.石垣文：児童養護施設における生活単位小規模化の実態に関する研究、日本建築学会中国支部研究発表会、2011年3月6日、山口

6. 研究組織

(1)研究代表者

石垣 文 (ISHIGAKI AYA)
広島大学・大学院工学研究院・助教
研究者番号：60508349

(2)研究分担者

伊藤 嘉余子 (ITO KAYOKO)
大阪府立大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：10389702

(3)連携研究者

生田 京子 (IKUTA KYOKO)
名城大学・理工学部・准教授
研究者番号：70420370